

乙訓教育局教職員支援アドバイザーが授業づくりの視点や課題についてお話しします！

授業づくり

めもらんだむ

4月特別号 学級開きのポイント

4月。新学期。子どもたちとの新たな出会い。担任の先生がクラスの子どもたちと初めて出会う場が「学級開き」です。今回の「めもらんだむ」は特別編として「学級開き」について考えてみました。



4月の初め…
お昼時の某ラーメン屋

子どもたちをよく観よう！

学級開きで心がけること

クラス名簿を目にした日から、先生方は子どもたち一人一人のことをあれこれ想像していたはず。でも、想像と実際には大きなギャップがある。自身の眼で子どもたちをよく観て、よい所や課題、特徴や人間関係などを探り、子どもとクラスの分析をスタートさせよう。

担任としての姿勢を伝える工夫を！

ほとんどの場合学級開きでの子どもたちのスタンスは「様子見(ようすみ)」。この「隙」を逃さず、クラスをこんなふうになりたい…こんな子どもになってほしい…こんなことを大切にしたい…そういった「担任」としての思いや姿勢を子どもたちにはっきりと示せるよう工夫してみよう。ただし、子どもの気持ちを無視した押しつけは禁物。クラスは子どもたちのためのもの、ということを忘れないで。

テンポ重視！明るく前向きなトーンで！

この日は「子どもたちに手持無沙汰な時間を作らない」ことを心がけよう。クラスに対してマイナスのイメージではなく「楽しそうなクラス」というプラスの思いを持たせるためにも、テンポ良く、しかも明るく楽しい雰囲気になるよう、1日の流れを考えてみよう。



子どもたちを動かしてみよう!

学級のスタートにはいろいろやらなければならないことも多いはず。その一部を子どもたちに任せてみては? 静かに座って話を聞くだけでは子どもたちも退屈。

プリントや教科書を配る、掲示物を貼る、挨拶の号令をかけるなど簡単な活動を考え頼んでみよう。

子どもたちが実際に活動する中で、じっとしているだけではわからなかった子どもの状況も見えてきたりするよ。



「ほめる」を使ってみよう!

活動を頼んだ後は必ずしっかりほめよう。

「ありがとう!」と言われれば、だれだって悪い気はしないはず。

それだけでなく「いい返事! 気持ちいいなあ」「ていねいに配ってくれてありがとう」「笑顔で引き受けてくれてうれしいよ」などちょっとした価値観を付け足すことで、先生がどんなことを評価し、どんなことを大切にするのか、というメッセージも伝えることができるよ。



「学級開き」は1年間のクラスづくりの第一歩ではありません。

でも、学級開きについて考えること・子どもをよく観ること、その上でクラスの活動を計画すること、突発的な事象に備えることなどは、担任としてクラスを指導する力の向上に必ずつながります。

先生方と子どもたちとの出会いが素晴らしいものになりますように...



次号もお楽しみに!

アドバイザーの経験も踏まえ、もう少し具体的なお話をしてみましょう!



綿密に、きめ細かくても、余裕を持って!

実は「学級開き」は準備に時間をかけることができる数少ない学活。

自分の勤勉さを最大限に引き出し、細かく計画を立てておこう(分単位で計画を立てるぐらいの気持ちで...).

思ったとおりになかった時のことや休み時間の動き、(考えたくないけど)トラブルや問題行動などの対応も考えておくといいよ。

突発的なトラブルは心配だけど、それを的確に処理できた時は、子どもたちの先生への信頼度は急速にアップするぞ。



教職員支援アドバイザーって?

乙訓教育局教職員支援アドバイザーは主に若い先生方の支援を目的に、令和2年度から乙訓教育局に配置されました。

毎年、小・中学校あわせて200コマ以上の授業を参観させていただいており、参観後は先生方と面談し、助言をしたり相談を受けたりして、悩みや困り感に応えようとがんばっています。

今年もたくさんの先生方とお話ができばうれしいです。

